

3. 生活の質の向上

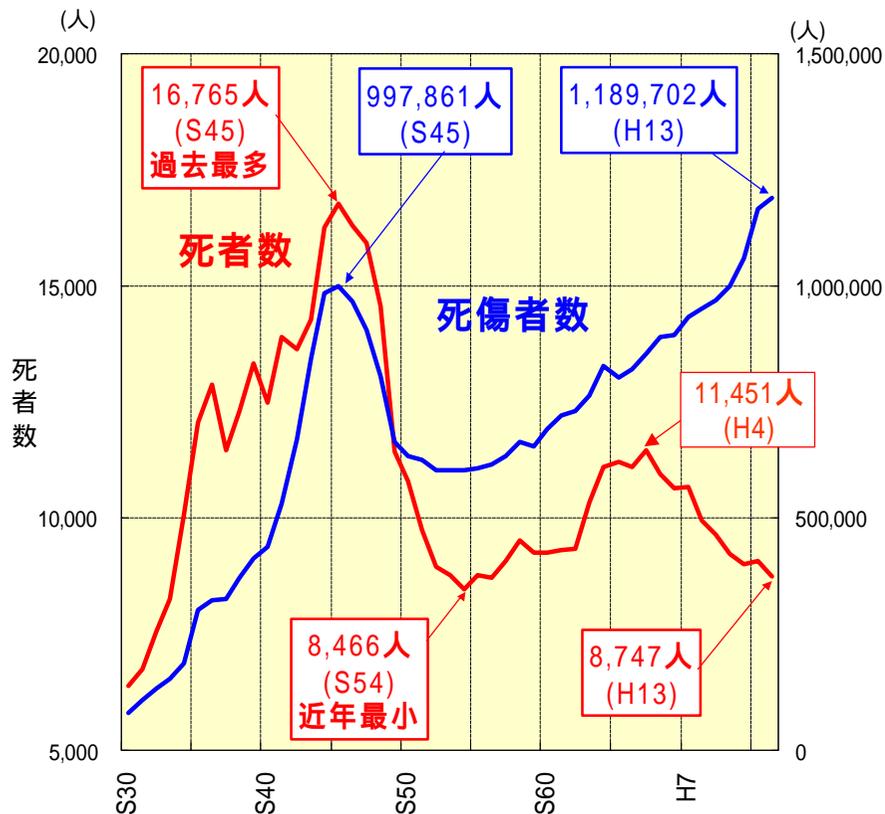
(1) 安全な生活環境の確保

交通安全の現状

事故死者数：8,747人/年（近年減少）
 死傷者数：119万人/年（最悪更新）

交通事故による経済的損失額は年間約3.5兆円、
 3大都市圏で高い傾向

減少傾向の死者数、増加しつづける死傷者数



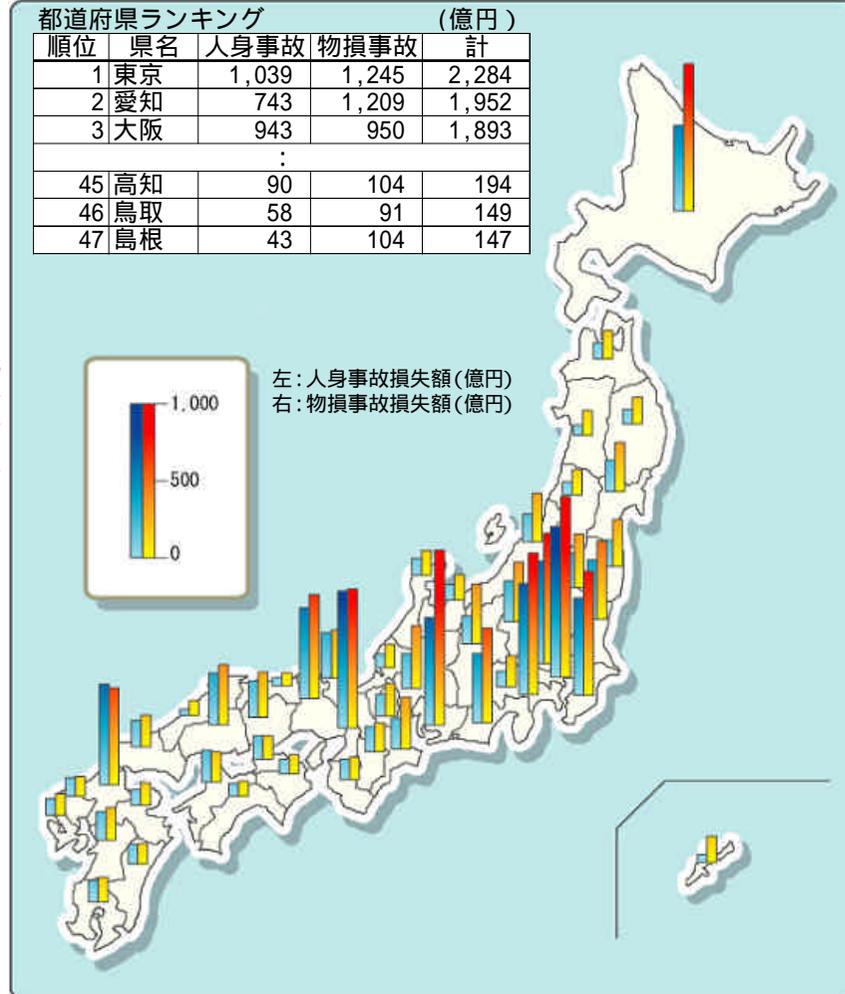
交通事故死者数・死傷者数の推移

交通事故による経済的損失額

(日本損保協会: H11)

都道府県ランキング (億円)

順位	県名	人身事故	物損事故	計
1	東京	1,039	1,245	2,284
2	愛知	743	1,209	1,952
3	大阪	943	950	1,893
...				
45	高知	90	104	194
46	鳥取	58	91	149
47	島根	43	104	147



一生で事故に遭遇する人は、2人に1人

【1年間で交通事故に遭遇する確率】

$118\text{万人} / 12,692\text{万人} = 0.9\%$

一生を80年と仮定

【一生(80年)で交通事故に遭遇する確率】

$1 - (1 - 118\text{万人} / 12,692\text{万人})^{80\text{年}} = 53\%$

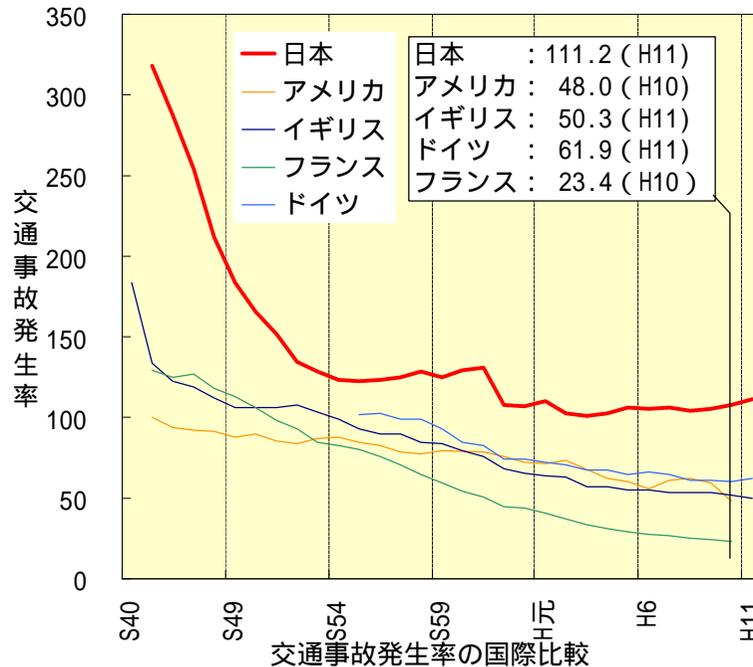
1年間で交通事故に遭遇しない確率

事故に遭遇
しない確率を
80乗

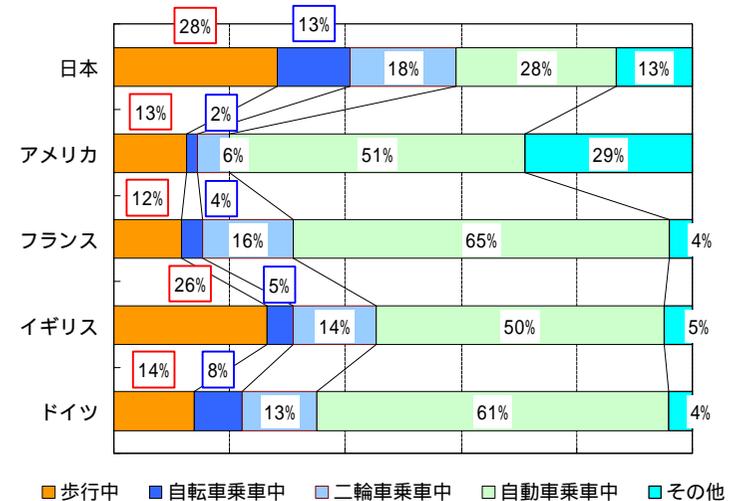
- ・ 1年間の交通事故死傷者数： 118万人（平成13年度 警察庁発表）
- ・ 日本の総人口： 12,692万人（総務省統計資料 「人口推計H12.10.1現在 確定値」）

国際的に見ても高い交通事故発生率（特に歩行者・自転車）

日本はイギリスの約2倍の交通事故発生率
(件/億台キロ)



歩行中、自転車乗車中の死者数の割合は
約4割を占め、国際的に見ても高い



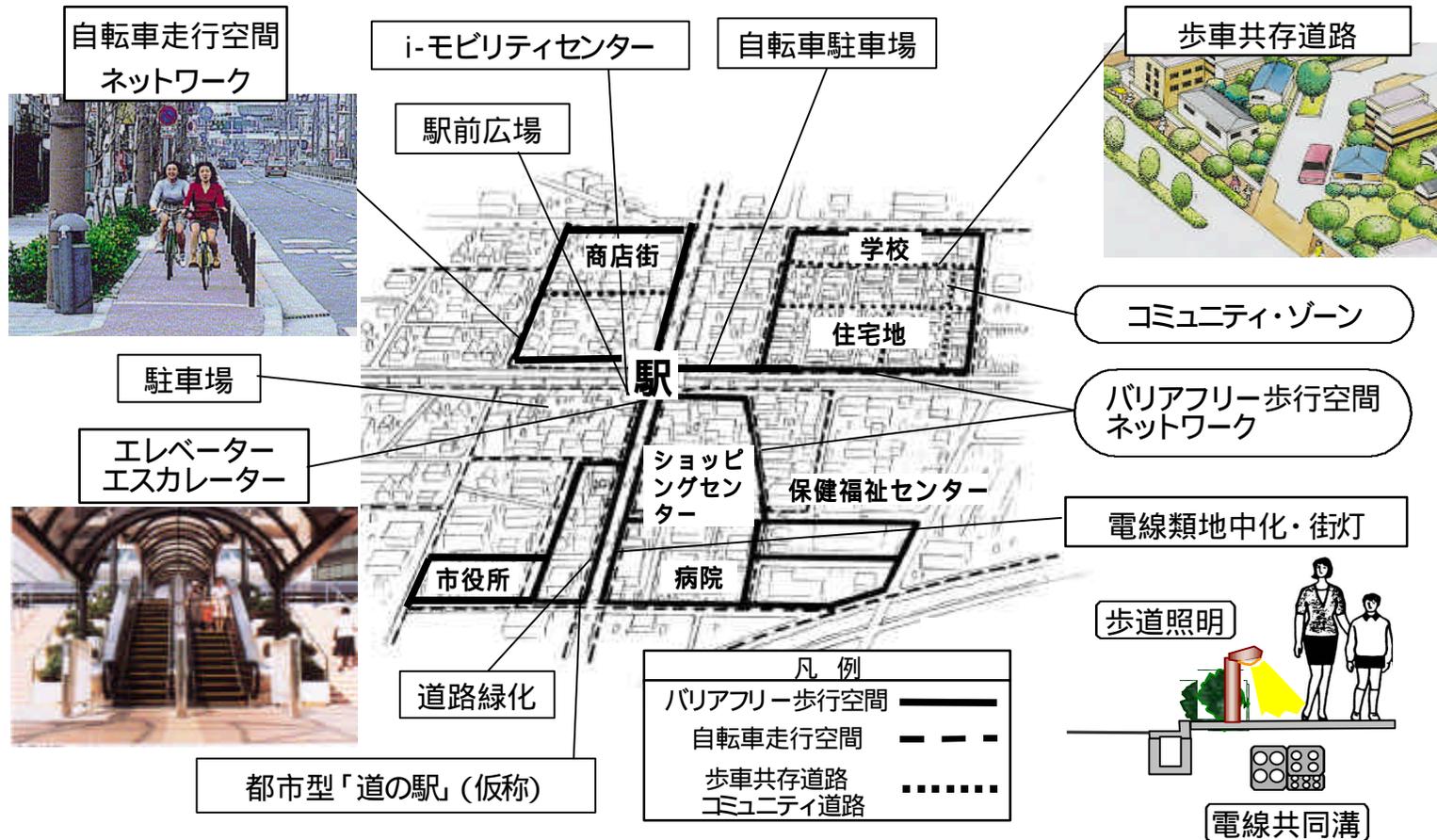
状態別死者数の国際比較(H10)

(2) 快適な生活空間の形成

歩行空間のバリアフリー化を推進

誰もが安心して社会参加ができ、快適に暮らせる生活環境を確保するため、バリアフリー歩行空間ネットワークの整備や、自転車が快適かつ安全に利用できる道路空間づくりを推進

【人・自転車・車・緑の調和した道路空間の面的な形成】



電線類の地中化の推進

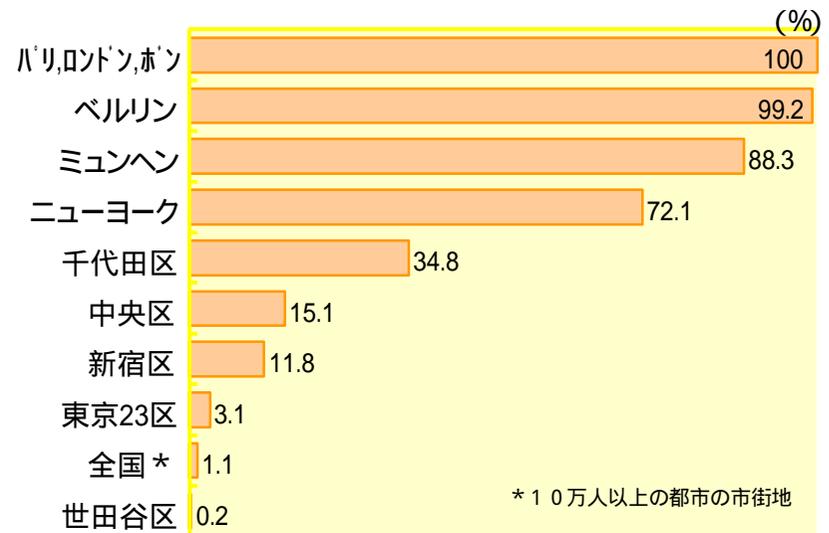
安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、都市災害の防止、情報ネットワークの信頼性の向上を図るため、新電線地中化計画に基づき、5年間で3,000km程度の地中化を実施。

【電線類地中化の整備前後の比較（岡山市）】

【道路における無電柱率の国際比較】

< 整備前 >

< 整備後 >



注: 海外の都市は電気事業連合会調べによる1977年の状況(ケーブル延長ベース)。
日本の状況は国土交通省調べによる1998年の状況